

## 京丹後市立病院改革プラン

# 指標に対する評価 (収支計画・実績)

弥栄病院

## 1. 収支計画(収益的収支)

(単位:百万円、%)

区分		年度										
		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
収	1. 医業収益 a	3,582	3,615	3,692	3,639	3,583	3,728	3,833	3,830	3,585	3,844	3,861
	(1) 料金収入	3,234	3,288	3,353	3,300	3,227	3,387	3,456	3,487	3,196	3,501	3,517
	(2) その他	348	327	339	339	356	341	377	343	389	343	344
	うち他会計負担金	197	183	191	187	200	187	210	187	220	187	187
	2. 医業外収益	144	290	311	281	303	303	323	316	311	321	306
	(1) 他会計負担金・補助金	110	113	119	140	126	159	155	165	147	158	157
	(2) 国(県)補助金	16	16	17	15	16	15	16	15	15	15	15
	(3) 長期前受金戻入	0	114	120	99	103	104	108	110	120	120	107
	(4) その他	18	47	55	27	58	25	44	26	29	28	27
	経常収益(A)	3,726	3,905	4,003	3,920	3,886	4,031	4,156	4,146	3,896	4,165	4,167
入	1. 医業費用 b	3,570	3,664	3,729	3,764	3,751	3,860	4,096	3,925	4,053	3,957	3,954
	(1) 職員給与費 c	1,940	1,992	2,031	2,089	2,102	2,094	2,225	2,096	2,261	2,092	2,093
	(2) 材料費	1,038	1,042	1,059	1,036	994	1,090	1,133	1,127	1,035	1,106	1,111
	(3) 経費	412	393	386	432	426	462	500	440	480	419	419
	(4) 減価償却費	164	224	241	197	205	204	214	251	252	329	320
	(5) その他	16	13	12	10	24	10	24	11	25	11	11
	2. 医業外費用	104	140	142	136	140	158	165	192	181	201	199
	(1) 支払利息	24	22	20	23	18	39	24	57	35	62	60
	(2) その他	80	118	122	113	122	119	141	135	146	139	139
	経常費用(B)	3,674	3,804	3,871	3,900	3,891	4,018	4,261	4,117	4,234	4,158	4,153
経常損益(A)-(B) (C)	52	101	132	20	▲5	13	▲105	29	▲338	7	14	
特別損益	1. 特別利益(D)	23	21	14	14	16	15	17	13	14	24	18
	2. 特別損失(E)	25	118	1	0	0	0	0	215	266	0	0
	特別損益(D)-(E) (F)	▲2	▲97	13	14	16	15	17	▲202	▲252	24	18
純損益(C)+(F)	50	4	145	34	11	28	▲88	▲173	▲590	31	32	
累積欠損金(G)	1,434	770	625	591	614	563	702	736	1,292	705	673	
不良債務	流動資産(ア)	833	783	774	800	734	932	791	801	823	854	983
	流動負債(イ)	430	489	473	473	433	573	544	473	831	403	403
	うち一時借入金	200	90	70	70	100	170	180	70	490	0	0
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(エ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不良債務差引(オ) [(イ)-(エ)] - [(ア)-(ウ)]	▲403	▲294	▲301	▲327	▲301	▲359	▲247	▲328	8	▲451	▲580	
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	101.4	102.7	103.4	100.5	99.9	100.3	97.5	100.7	92.0	100.2	100.3	
不良債務比率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	▲11.3	▲8.1	▲8.2	▲9.0	▲8.4	▲9.6	▲6.4	▲8.6	0.2	▲11.7	▲15.0	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	100.3	98.7	99.0	96.7	95.5	96.6	93.6	97.6	88.5	97.1	97.6	
職員給与費対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$	54.2	55.1	55.0	57.4	58.7	56.2	58.0	54.7	63.1	54.4	54.2	
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額(H)	▲403	▲294	▲301	▲327	▲301	▲359	▲247	▲328	8	▲451	▲580	
資金不足比率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	▲11.3	▲8.1	▲8.2	▲9.0	▲8.4	▲9.6	▲6.4	▲8.6	0.2	▲11.7	▲15.0	
病床利用率	82.1	82.3	81.4	81.0	79.9	83.9	81.0	86.0	72.5	87.1	88.3	

## 2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	
収 入	1. 企業債	154	165	260	1,094	844	3,017	2,886	1,212	1,550	120	120	
	2. 他会計出資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3. 他会計負担金	105	117	116	126	129	120	124	118	119	150	146	
	4. 他会計借入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5. 他会計補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	6. 国(県)補助金	53	3	4	3	3	43	44	100	107	3	3	
	7. その他	0	6	2	0	0	0	1	0	2	0	0	
	収入計 (a)	312	291	382	1,223	976	3,180	3,055	1,430	1,778	273	269	
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	純計(a)-{(b)+(c)} (A)	312	291	382	1,223	976	3,180	3,055	1,430	1,778	273	269	
	支 出	1. 建設改良費	224	171	299	1,094	851	3,057	2,940	1,397	1,665	120	129
		2. 企業債償還金	287	319	314	223	223	210	211	255	207	269	261
3. 他会計長期借入金返還金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4. その他		2	2	4	6	7	4	7	4	6	4	4	
支出計 (B)		513	492	617	1,323	1,081	3,271	3,158	1,656	1,878	393	394	
差引不足額 (B)-(A) (C)	201	201	235	100	105	91	103	226	100	120	125		
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	227	92	242	126	104	124	103	195	91	243	254	
	2. 利益剰余金処分量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計 (D)	227	92	242	126	104	124	103	195	91	243	254		
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	▲ 26	109	▲ 7	▲ 26	1	▲ 33	0	31	9	▲ 123	▲ 129		
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
実質財源不足額 (E)-(F)	▲ 26	109	▲ 7	▲ 26	1	▲ 33	0	31	9	▲ 123	▲ 129		

1. 平成25年度までは旧会計基準による数値である。

## 3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
収益的収支	( 0) 307	( 0) 296	( 0) 310	( 0) 327	( 0) 327	( 0) 346	( 0) 365	( 0) 352	( 0) 367	( 0) 345	( 0) 344
資本的収支	( 2) 105	( 0) 117	( 2) 116	( 4) 126	( 7) 129	( 4) 120	( 7) 124	( 4) 118	( 5) 119	( 4) 150	( 4) 146
合計	( 2) 412	( 0) 413	( 2) 426	( 4) 453	( 7) 456	( 4) 466	( 7) 489	( 4) 470	( 5) 486	( 4) 495	( 4) 490

(注)

1 ( )内はうち基準外繰入金額。

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう。

◆指標(数値目標)に対する評価

【弥栄病院】

1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化に関する指標

(1)訪問看護者数

単位:人

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	7,675	10,524	A
H30	7,720	11,091	A

<H29・H30状況等>

地域の需要に応えるため平成27年度の途中から丹後庁舎内に弥栄病院2つ目の訪問看護ステーションを開設し、右肩上がりで順調にサービス利用者を増やしてきている。

(2)通所リハビリテーション利用者数

単位:人

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	-	-	-
H30	-	-	-

<状況等>

-

2. 経営の効率化に関する指標

(1)収支改善に係るもの

①経常収支比率(医業収益+医業外収益/医業費用+医業外費用)

単位:%

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	100.3	97.5	B
H30	100.7	92.0	B

<H29状況等>

事業収益は過去最高額となったが、支出は改築整備事業に係る経費や職員人件費の増など支出も増加し、黒字化は達成できなかった。

<H30状況等>

病院改築整備事業による工事の影響や年度途中での常勤医師の減少等に伴う入院患者数の大幅減少等により医業収益が大きく落ち込み、黒字化は達成できなかった。

(2)経費削減に係るもの

①材料費対医業収益比率(材料費 / 医業収益)

単位:%

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	29.2	29.6	B
H30	29.4	28.9	A

<H29・H30状況等>

経営コンサルタントを活用して薬剤購入の価格交渉を行うとともにSPD業者と一体となって経費削減に努めた。

※SPD…医療消耗材料など全ての物品を管理する業務

②医業収支比率(医業収益 / 医業費用)

単位:%

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	96.6	93.6	B
H30	97.6	88.5	B

<H29・H30状況等>

改築整備事業に関連する消耗備品及び新棟・既存棟の併存期間に伴う光熱水費等の経費の増、加えて時間外勤務手当など人件費が増加し、計画値に届かなかった。

◆指標(数値目標)に対する評価

【弥栄病院】

(3)収入確保に係るもの

①1日当たり入院患者数

単位:人

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	167	162	B
H30	171	145	B

<H29状況等>

内科、透析患者は増えたが、見込んでいた外科の常勤医確保を実現できず入院患者の増を達成できなかった。

<H30状況等>

透析患者は増えたが、見込んでいた外科の常勤医確保を実現できず入院患者の増を達成できなかった。

③病床利用率

単位:%

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	83.9	81.0	B
H30	86.0	72.5	B

<H29状況等>

内科、透析患者は増えた。さらに見込んでいた外科の常勤医確保を実現できず入院患者の増を達成できなかった。

<H30状況等>

透析患者は増えたが、見込んでいた外科の常勤医確保を実現できず入院患者の増を達成できなかった。また、内科常勤医師の退職などにより入院患者が大幅に減少し悪化した。

②1日当たり外来患者数

単位:人

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	412	404	B
H30	430	402	B

<H29状況等>

内科は医師体制が充実したこと、小児科、精神科は外来体制等が充実したことにより外来患者数が伸びたが、常勤医が居ない外科は減少し、また重症化により外来透析から入院透析に移行する患者が増え、外来透析患者数が減少した。

<H30状況等>

小児科、精神科は外来体制等が充実したことにより外来患者数が伸びたが、常勤医が居ない外科は減少し、また重症化により外来透析から入院透析に移行する患者が増え、外来透析者数が減少した。

(4)経営の安定性に係るもの

①常勤医師数 ※年度末人数

単位:人

弥栄病院	計画	実績	自己評価
H29	12	11	B
H30	14	8	C

<H29状況等>

外科の常勤医確保を予定していたが実現できなかった。

<H30状況等>

内科医の退職や産婦人科医の逝去があり、また、外科の常勤医確保等を予定していたが実現できず、常勤医師数が計画を大きく下回った。